

学びをひろげる (第9回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

日時 2015年3月14(土) (1時45分~5時)
場所 クレオ大阪東
(大阪市城東区鳴野(しぎの)西 2-1-21 ☎06-6965-1200)
参加費 500円(会場費・運営費等) ※学生は、無料です。



京橋駅 (JR線) 南口から南へ約600メートル
大阪ビジネスパーク駅(地下鉄長堀鶴見緑地線)
4番出口から東へ約700メートル
京橋駅 (京阪線) 中央口から南へ約850メートル

一人で拡がらない学びを○人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合いましょう。



第8回の内容

「高校生の学び」について考えました。自我が確立し社会的興味や関心が広がる高校生は、最も主体的な学習ができる年代であるはずなのに、高校の授業を知る機会が持てませんでした。そんな中で府立高校教員である西山卓彦さんが、高校1年生のクラスの「キャリア教育も含めた広い意味での人権教育」の報告をしてくださいました。Youtube、DVD、授業、講演会と2か月かけて取り組まれました。最後に「私の小学校のときも支援学級があったけど、そんな学級をつくらなくて、みんな一緒に授業するのはいいなと思った」など、生徒の感想文もたくさん紹介してくださいました。

報告の後意見交流では、「障害者を批判するような生徒や、ちがった意見を持っている生徒を紹介して、みんなで話し合うようなことはできないか」、「普段の授業では決して見られない真剣さで、ビデオを観て、考え、感想を書く生徒の姿もあった」「受験勉強が横行している高校の中で、生徒が人権問題のビデオを観る、感想や意見を書くことができるということがすばらしい」などの意見が活発に交わされました。映画『みんなの学校』の監督真鍋俊永さんが駆けつけてくださり、大空小学校や教育について語っていただきました。「(大空小のような実践が) “どうすればできるのか” とよくきかれる。” “できるかできないか”ではなく、“やりたいかやりたくないか”の問題ではないか」という真鍋さんの言葉が印象に残りました。今回は初めての「高校の学び」をテーマにした研究会だったので、「高校での授業をどうつくるのか」よりも、まず「高校の現状を知る」ことを目標にしました。その意味では十分参加者の中に興味をひろげ共有することができたのではないかと思います。



研究会の様子

今回 第9回は



高校の実践：選択科目「共生科・地域福祉の授業」

報告：増田 俊道さん(府立高校教員)

池田北高校で10年近く取り組まれた「地域福祉」の授業について提案していただきます。池田北高校は地域の(地元の)学校であることを守るために、あえて府教委が10年くらい前に推進した特色化には乗らず、そのかわり、選択科目として共生科という枠組みの中で朝鮮語・中国語・エスペラント語を学ぶ「国際理解」と地域で活動する「障害」当事者から学ぶ「地域福祉」という学校設定科目を創設しました。

増田さんは、この「地域福祉」を担当されて、「障害」当事者にも講師として参加してもらったそうです。大阪の高校教育の現状についても参加者の皆さんと交流したいと思います。

案内は、ホームページ (<http://manabi-hirogeru.net/>) にも掲載しています。(多くの方の申し込みをお待ちしています) 当日参加もOKです。

「学びをひろげる」スタッフ 堀 智晴、松森 俊尚、山本 卓雄

連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☎✉gakimon57tm@ezweb.ne.jp ☎✉matumori@crux.ocn.ne.jp)

山本 (☎✉yamamoto2.cham-miku@nifty.com) 堀 (☎✉hori720@hotmail.com)

★次回第10回研究会は、2015年5月23日(土) 午後1時45分~5時 クレオ大阪東 で行います★